

2020年度
自己点検・評価報告書
(日本語・日本文化教育センター)

創価大学

日本語・日本文化教育センター

基準 7 学生支援

点検評価項目① 学生が学習に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、学生が学習に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、学生支援に関する大学としての方針を明示しているか。

(1) 現状の説明

創価大学は、建学の精神として、「人間教育の最高学府たれ」「新しき大文化建設の揺籃たれ」そして「人類の平和を守るフォートレス（要塞）たれ」の3つを掲げて、「創造的人間」の育成を教育目標としてきた。

日本語・日本文化教育センターは、以上の教育理念と目的を受けて、主に外国人留学生を対象に、日本語並びに日本文化を教授すると同時に、人間教育を通して異文化理解、平和構築を可能とする創造的世界市民の育成を図ってきた。

その上で、具体的な学生支援に関して、留学生に対する支援として、特に奨学金制度、生活支援、大学寮等は大学ホームページ（以下「HP」）に明記されている。

(2) 点検・評価

1) 効果が上がっている事項

HPで学生支援の詳細を明示していることと、毎回の学期初めのガイダンスにおいて、学生支援の姿勢と詳細を、学生に知らせている。

特に、2014年に文科省の「スーパーグローバル大学創成支援」事業に採択されて以来、交換留学生制度の拡充、留学生数の増加と出身国の多様化が図られており、受入れ留学生の急増に対応して、特に奨学金制度の拡充をはかり、上述のHP等で学生に明示している。

2020年度においてはコロナウイルス感染症の影響により、春学期には全ての授業をオンラインで実施したり、日本に在住する学生に支援措置を行ったりするなどしたが、HPを中心に各種の連絡をおこなうことができた。

2) 改善すべき事項

HPにおける英語、中国語、ハンダ語による情報量と質が日本語と較べて劣る。

(3) 将来に向けた発展方策

1) 効果が上がっている事項

HPによる学生支援の方針が明示されており、あらたに留学生向けキャリア・サポートについても業務の開始に伴って開設されたところである。

2) 改善すべき

HP上の情報として、他の言語でも、日本語の内容と遜色のないよう、改善する必要がある。

(4) 根拠資料

大学HP、『創価大学教育ヴィジョン』

点検・評価項目② 学生支援に関する大学として方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

<修学支援>

「留学生等の多様な学生に対する修学支援の適切性」

(1) 現状の説明

特別履修課程では、留学生の日本語能力に応じて、日本語初級前半レベル（E0 クラス）、初級後半レベル（E1 クラス）、初中級（E2 クラス）、中級前半（E3 クラス）、中級後半（E4 クラス）、上級（E5 クラス）の6クラスに分けて授業を行っている。また、その他、英語で行う授業等、日本語学習以外を主目的とする学生が、日常生活に必要なサバイバル日本語を学ぶコース（ES クラス）を設けている。一方、学部進学のための日本語を学習する別科日本語研修課程では、日本語能力に応じて3クラスに分けて授業を行っている。

2020年度においては新型コロナウイルス感染症の影響により、入学予定者が年度当初から来日できないケースや、来日した学生が感染症をめぐる諸事情により帰国するケースも多かったため、春学期についてはすべての授業をオンラインで実施した。

日本語研修課程については多くの学生が渡日可能となった段階（2020年11月）から対面授業を本格的に開始することとした。

特別履修課程では年間を通じオンライン授業を実施する一方で、一旦入学手続きを行ったものの来日できず、かつ来日後の対面授業を希望する学生に対し、休学を認め、納入した学費を来日可能となる学期の学費に充てることができるよう、学内規則を変えるなどして対応した。

(2) 点検・評価

1) 効果が上がっている事項

特別履修課程のクラスは、日本語能力試験（JLPT）の各級に合わせて構成している。E0はN5、E1はN4、E2はN3、E3はN2、E4はN1に合格するレベル、E5はN1を高得点で合格するレベルを目標としている。このように日本語能力に応じてクラスを細かく分け、到達目標を明確にしている。そうすることによって、学生は自分のレベルに合った授業を履修できるとともに、到達目標を目指して日本語学習に取り組んでいる。

2) 改善すべき事項

日本語研修課程は学部進学のための1年間の予備課程であり、学部の授業を受けるに足る日本語能力を身に付けることが目標となる。しかし、非漢字圏ゼロスタートの学生が1年で学部の授業を受けるに足る日本語能力を身に付けることは相当に困難であるため、1回の留年を可能としているが、大学としても引き続き多大な支援が必要である。

(3) 将来に向けた発展方策

1) 効果が上がっている事項

日本語能力に応じたクラス分けは、学生の日本語能力を伸ばす上で、たしかに効果が見られる。なお、特別履修課程においては、多様なニーズに応じていくために、授業内容について絶えず見直していく必要がある。また、留学生の就職を視野に入れたビジネス日本語に関するキャリア科目として「留学生のためのキャリアコミュニケーションⅠ」(春)、「留学生のためのキャリアコミュニケーションⅡ」(秋)の2科目が開講された。

2) 改善すべき事項

非漢字圏ゼロスタートの学生が、1年間、最悪でも2年で学部進学レベルの日本語能力を身に付けることは容易ではないため、オンラインによる個別指導を含め、今後も多様な努力が必要である。

(4) 根拠資料

創価大学ホームページ

「成績不振の学生の状況把握と指導の適切性」

(1) 現状の説明

特別履修課程では、全ての授業が10数名～20数名の少人数のクラスで、アクティブ・ラーニングの手法で行われており、各授業担当教員が毎回各留学生の授業理解度や進度を、授業活動、小テスト、宿題等によって常にチェックしている。また、進度の遅れている留学生、健康上等の理由で欠席が続いた留学生に対して、個別に指導、アドバイス、課題学習等を行っている。

日本語研修課程では、一週間に一回行っている到達度テストで、ある程度の点数が取れていない学生にはもう一度同じテストを受けるチャンスを与え、それでも及第点に達しない場合は個別に指導をして定着を図っている。どの項目に正解が少なかったか、教員は誤答の傾向、頻度を把握している。誤答が著しい場合、担当教員にその旨を伝え、教え方に問題がなかったか検討している。

2020年度においては新型コロナウイルス感染症の影響により、春学期についてはすべての授業をオンラインで実施するなど、オンライン教育を多用したが、学生の学習上の問題についても、オンラインにより個別に把握した。

(2) 点検・評価

1) 効果が上がっている事項

小テストや到達度テストの実施、及びその後の個別指導やアドバイスにより、なぜ成績不振に陥っているのか、学生自身が理解し、学習への取り組みを改善することができる。また、学生のみならず教員も同様に問題を認識することができ、その後の授業に生かされている。

2) 改善すべき事項

特別履修課程では、日本語能力に応じてクラスを細かく分けている。学期の初めにプレースメント・テストを実施し、その結果から無理なく日本語を習得できるように、一人ひとりに履修すべきクラスを提示している。中には自分のレベルに合わない、上のレベルのクラスを希望する学生がおり、希望通りにした場合授業についていくことができず、成績不振に陥ることが多いため、プレースメント・テストで判定されたレベルから2つ以上離れたレベルのクラスを履修できないルールとしたが、引き続きこの制度について全学生に十分に説明し、日本語学習意欲が確保できているかどうか、確認する必要がある。

(3) 将来に向けた発展方策

1) 効果が上がっている事項

小テストや到達度テストは学習意欲を高め、実施後の個人指導やアドバイスと併せて、その効果が見られる。今後、発展させるためには、その問題の内容の適切さを絶えず点検する必要がある。このテストの学習に取り組むことが日本語の上達につながるような問題作成を心がけることが必要である。

2) 改善すべき事項

オンライン教育の比率が今後も高いレベルで推移していくと考えられることから、遠隔地の学生に対する配慮が重要となっている。

(4) 根拠資料

教員個人所有のデータ

点検・評価項目③ 学生支援の適切性についての定期的に検証を行っているか。また検証結果を基に改善にむけた取り組みをおこなっているか。

(1) 現状の説明

日本語研修課程の学生、交換留学生、特別履修生については、日本語・日本文化教育センター専任教員とセンター長と国際部職員から構成される日本語・日本文化教育センター委員会において、学生支援について定期的に検証を行っている。また改善すべき問題点について、改善に向けた取り組みをおこなっている。

(2) 点検・評価

1) 効果が上がっている事項

上記のセンター所員会においては、教員と職員が学生支援について検証し、課題と対策案を定期的に検討し、実施している点。

2) 改善すべき事項

センター所員会では、主に教育・修学支援が中心となり、生活支援、進路支援の検討にかける時間が割と少なくなっている。

(3) 将来に向けた発展方策

1) 効果が上がっている事項

センター所員会ではさらに教員と職員がよく連携をとり、検証して行きたい。

2) 改善すべき事項

センター所員会における学生支援の議題に多くの時間を割けるように改善したい。

(4) 根拠資料

各センター所員会の議事録